

神戸市社会人リーグ終了

神戸市役所A(1部) 2年連続優勝

56年度神戸市社会人リーグは1部10チーム、2部2組19チーム、3部6組59チーム計88チームが参加して、昨年4月に開幕し、磯上、神戸中央サブを中心に行われ、1月にその幕を閉じた。

1部は神戸市役所Aが最終戦で川重発本に敗れたものの1年間安定した力を発揮して2年連続2度目の優勝を果たした。市役所は数年前から若手への切り替えを計り、その成果が期待されていたが、一昨年、昨年と大切なゲ

ームで勝てず、県リーグ入りも果せなかった。しかし、今年はこれまで市役所をささえてきたベテランの心意気がやっと若手に実り、見事県リーグ入りを果たすと同時に市内チャンピオンに輝いた。

2部ではA組で神大同好会が6勝3分け無敗で1位となり1部に返り咲き、B組では神戸税関が7勝1敗で1部昇格を決めた。また、A組4位の神戸FCシニアAとB組2位のビートルズは1部下位のあしかびFC、赤塚山

OBとそれぞれ入替戦を行う。(注：A組2位はKR&ACで上部昇格の意志なく、3位の兵庫教員は棄権試合があり上部への挑戦権がないため、4位の神戸FCシニアAがくり上って挑戦権を得た。)

なお、今年は上半期に高校グラウンド、瀬戸グラウンドの確保がうまくいき、ハイ・ビッチでリーグが消化されたが、下半期は日程の調整がつかず12月末までに消化予定のゲームが、1月までずれこんだ。また、昨年同様棄権試合が後をたらず、対戦チームに迷惑をかけるチームが多いのは残念であった。本リーグは加盟団体の自主的な紳士協定で運営されており、今後もその方針はかわらないのでぜひとも参加チームのご協力を願います。

1部 昭和56年度 神戸市社会人リーグ戦成績表

| チーム名   | 勝  | 敗  | 分 | 得点 | 失点 | 順位 |
|--------|----|----|---|----|----|----|
| 神戸市役所A | 10 | 0  | 0 | 28 | 5  | 1  |
| 川重発本   | 7  | 3  | 0 | 21 | 12 | 2  |
| 神戸中央サブ | 6  | 4  | 0 | 18 | 15 | 3  |
| アース    | 5  | 5  | 0 | 15 | 15 | 4  |
| 神戸市役所B | 4  | 6  | 0 | 12 | 18 | 5  |
| 神戸市役所C | 3  | 7  | 0 | 10 | 20 | 6  |
| 神戸市役所D | 2  | 8  | 0 | 8  | 22 | 7  |
| 神戸市役所E | 1  | 9  | 0 | 5  | 25 | 8  |
| 神戸市役所F | 0  | 10 | 0 | 2  | 30 | 9  |
| 神戸市役所G | 0  | 10 | 0 | 1  | 35 | 10 |

2部 Aグループ

| チーム名     | 勝 | 敗 | 分 | 得点 | 失点 | 順位 |
|----------|---|---|---|----|----|----|
| 神大同好会    | 6 | 3 | 0 | 21 | 12 | 1  |
| 神戸税関     | 7 | 1 | 0 | 25 | 8  | 2  |
| あしかびFC   | 4 | 4 | 2 | 15 | 15 | 3  |
| 赤塚山      | 3 | 5 | 2 | 12 | 18 | 4  |
| 神戸FCシニアA | 2 | 6 | 2 | 10 | 20 | 5  |
| 神戸FCシニアB | 1 | 7 | 2 | 8  | 22 | 6  |
| ビートルズ    | 0 | 8 | 2 | 5  | 25 | 7  |

2部 Bグループ

| チーム名     | 勝 | 敗 | 分 | 得点 | 失点 | 順位 |
|----------|---|---|---|----|----|----|
| 神戸FC     | 5 | 4 | 1 | 18 | 15 | 1  |
| 神戸FCシニアA | 4 | 5 | 1 | 15 | 15 | 2  |
| 神戸FCシニアB | 3 | 6 | 1 | 12 | 18 | 3  |
| 神戸FCシニアC | 2 | 7 | 1 | 10 | 20 | 4  |
| 神戸FCシニアD | 1 | 8 | 1 | 8  | 22 | 5  |
| 神戸FCシニアE | 0 | 9 | 1 | 5  | 25 | 6  |

国際ミニ・サッカー大会  
パルメイラス圧勝

日本ミニ・サッカー連盟が主催して、昨年より始められた国際サロン・フットボール大会は今年、ブラジルからジュベニール・チャンピオンで名門のパルメイラスを招き、全国各地で10試合を日本選抜と戦った。

関西では2月16日、尼崎体育館において夜7時より1,000人の観衆を集めて行われた。パルメイラスは昨年のパネスパより攻撃的なチームで、セルジオ越後、マリニョら国際的な技術を持つ日本選抜を終始スピードと動きのあるテクニックでほんろうし、前半4-1、後半7-1と大差で破った。サロン・フットボールはコートのごくからでも得点することができるのでシュート場面が多く、したがって得点が多いのが特徴である。この日も得点は大きな差となったが、点差ほどの差を感じさせない良いゲームであった。

サロン・フットボールは26×16mの狭いコートでハンドボールのゴールを用い、ボールは3号球で2mの高さより落下させて、30cm以内しかはさまないものを利用して行います。少人数で行うため、1人のプレーヤーがボールに触れる回数も多く、周囲のプレッシャーも強いので正確なボール扱いが要求され、技術と判断のスピードが養われます。また、ルールが簡易なため、いつでも、どこでも、誰でもが楽しく行えるスポーツで、特に子供や女子のサッカーへの導入や、狭いコートでの練習にはうってつけのスポーツといえるでしょう。(蔵方力)

有宏スポーツ  
東灘区御影本町4丁目11-9 ☎078(821)8449  
阪神御影駅南側西へ30m

灘スポーツ  
灘区倉石通5丁目1-8 ☎078(861)4671  
市バス水道筋6丁目上る100m 東側

塩谷スポーツ  
兵庫区大開通7丁目5 ☎078(576)0870  
パンドウ化学南

MEN'S SHOP MAC  
三宮センター街 ☎078(391)0895  
プレザージュ、トーアロード店 ☎078(391)0896  
ドルチェ・マック、センター街 ☎078(332)0141

ワールドスポーツ  
東灘区深江北町4丁目7-3 ☎078(453)2186  
阪神深江駅北側信号西

受講生募集  
少年指導者講習会 初級コース

神戸のサッカーのレベル・アップは底辺の拡大から。底辺の拡大とは『いかに子供たちにサッカーを好きにさせるか』ということが大きなポイントになる。神戸市協会では一人でも多くのサッカー好きの少年、少女を育てるために9年前から指導者講習会を実施してその指導者の養成を計っている。今年はコースを初級と中級の二つに分けて実施する。

現在、その初級コースについて受講生を募集している。初級コースでは、まったくサッカー経験のない方に、子供たちと一緒に遊ぶために必要な知識や技術をわかりやすく解説する。チビ選手のお母さんにも受講してみてはいかがでしょう。自分の子供のサッカーへの理解が深まり、ちょっと専門的な母と子の対話も生まれるでしょう。

【初級コース】  
とき 4月16日(金)、20日(火)、27日(火)、30日(金)、5月に3回予定  
18:30~20:30  
ところ 市立磯上球技場  
市立スポーツ会館(磯上内)  
開講式 4月16日、受け付け 18:30~  
講義、実技、19:00~20:30  
指導者 協会公認コーチ  
なお、当日受け付けで参加費2,000円を、納入して下さい。  
【中級コース】とき：8月下旬から11月上旬まで7回。 内容：指導の実習、戦術、作戦など。参加費：2,000円。

オウビ  
中央区琴緒町4-4-5 ☎078(242)3667  
国鉄三宮駅北側神戸経理専門学校斜め前(田上ビル1階)

スメラ  
湊川店 湊川プラザ2階 ☎078(511)2234  
鈴蘭台店 ダイエー西側 ☎078(592)0470

加茂トアロード店  
中央区三宮町3-8-8 ☎078(392)0234  
国鉄元町駅南側東へ100m

マヤスポーツハウス  
灘区森後町1丁目8-8 ☎078(841)8811  
国鉄六甲道駅北 兵庫信用金庫六甲支店山側

ヤノ運動用品  
本店 中央区三宮町3-8-1 ☎078(391)1121  
ファイブ店 中央区三宮町2-7-8 ☎078(331)4578  
六甲、長田、白川台、名谷、西明石、高砂、姫路、岡山

ありがとう  
日本ペプシコ(株)  
—5年間の資金援助終わる—

月刊『神戸のサッカー』が、100号を送り出して早くも半年が過ぎようとしております。弊紙がここまで続けてこれたのはスポンサーである日本ペプシコ株式会社のご支援によるところが大であります。しかし、この度会社のご都合により資金援助が打ち切られることになりました。

「サッカーを通じて健全な青少年の育成」をモットーに神戸市協会は日々努力しておりますが、昭和52年、われわれへの資金援助の要請に日本ペプシコ株式会社は無条件で快く応じて下さいました。それ以前はニュース発行のための財源として各方面にお願いをして苦勞しながら細々と続けてきました。その『神戸のサッカー』にとって日本ペプシコ株式会社のご支援は本当にありがたいものでした。

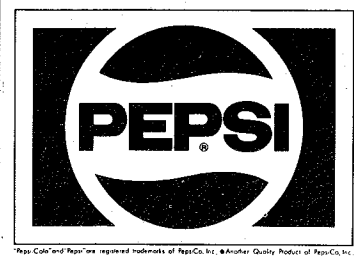
この様な強力なバック・アップがあって、100号を発行し『神戸のサッカー』の基礎がようやくできた今日、日本ペプシコ株式会社のご助成金打ち切りは誠に大きな打撃ではありますが、これも会社のやむをえない事情であり私たちがしましてはこれまでのご支援に心からの謝意を表したいと存じます。本当にありがとうございました。

さて、当面『神戸のサッカー』編集委員会といたしましては、ニュース発行の資金集めが急務となります。つきましては、関係各方面に広告のお願いをしなければなりません。『神戸のサッカー』の読者の皆様にもぜひご協力をお願い申し上げたいと存じます。

今回『神戸のサッカー』の直面しているピンチを打開するために読者の皆様の絶大なるご支援とご理解を賜りたく、お願い申し上げます。次第であります。市協会理事長 一北四郎

個人購読のご案内

弊紙を個人で購読ご希望の方は、1年分として70円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。  
〒650 神戸市中央区八幡通2-1-10  
三木記念神戸市立スポーツ会館内  
神戸市サッカー協会 078-232-0753  
なお、数人分まとめて申し込まれる場合は割引がありますのでご連絡ください。



市少年リーグ  
年間 582試合

大成功だった地区リーグ

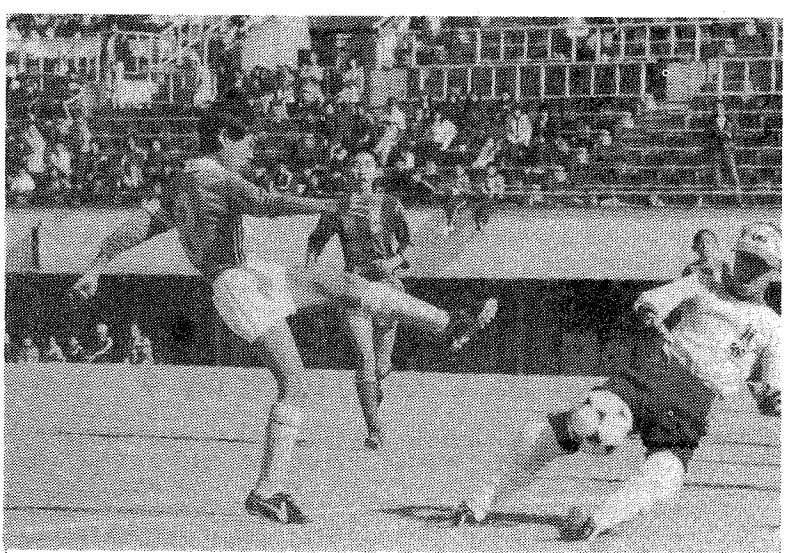
56年度神戸市少年リーグはI部からV部まで123チームが参加して、4月から2月までまさに年間通してのリーグ戦で、582試合を行い下記の成績を残して無事終了した。

今年度はこれまでと大会形式が大きく変わり、前記(1次リーグ)は市内を東、西、中、北の四つの地区内で戦い、後期(2次リーグ、決勝トーナメント)を全市で行うことになった。これによって総試合数がやや増えたが、前期各地区別リーグもスムーズに運営され、今後ますます広がる少年サッカー熱を吸収する方法が見つかり、大きな成果を残した。

また、神戸FCが主催してきたウィンター・フェスティバルの小6の部が今年から市協会も共催となり、市少年リーグの上位8チームに出場資格が与えられるとあって、I部は一層白熱した試合が展開され、全体のレベル・アップにつながった。

さて、来シーズンは今年の反省をもとに、ほぼ今年と同じ形式で行われるが、I部の後期の2次リーグは4チームづつ4組から、8チームづつ2組の総当り戦に改め、決勝トーナメントをやめて順位決定戦を行うことになった。また、V部は参加チームが少ないので2回戦総当り制に改めることになった。

◇◇◇◇◇ 56年度各部結果 ◇◇◇◇◇  
【I部】①東灘A②箕谷A③桜宮A



【II部】①ちとせA②福住B③箕谷B  
【III部】①多井畑D②箕谷C③蓮池E  
【IV部】①高倉台A②ひより台A③八多A

上位8チーム(I部)  
ウィンター・フェスティバルへ出場

兵庫教員堂々の三連覇

関学  
一歩及ばず

第8回 兵庫県選

神戸FCの計7チームで、大会の焦点は兵庫教員が三連覇するか、それとも関学、三菱神戸がストップをかけるかにあった。

組み合わせのいたずらで1回戦で早くも関学と三菱神戸があたり、好試合の末、関学が後半19分にPKで得た1点を守って三菱神戸を倒し、2回戦に進出した。また、続く新日鉄



広畑も4-2で破り決勝進出を決めた。一方では兵庫教員が1回戦不戦勝、2回戦で双和クラブを6-1で一蹴して決勝へ進んだ。

決勝戦は兵庫教員のGK福山、DF八木、MF桜木、FW山田らを中心とする試合巧者と、関学のGK新谷、DF井関、MF赤松、FW高浜、藤田らを中心とした運動量とテクニックある若い選手との対決であった。前半からお互いに激しく攻めあったが、キープ力に勝る兵庫教員が15分、八木の突破から桜木につなぎセンターリング、岸井がヘディング・シュートを決めて1-0と先行した。その後、関学は激しく攻めたが、ゴールを割ることができず、逆に兵庫教員の速攻を林が決めて2-0と差を広げた。後半は関学が兵庫教員の疲れをつき、押し込んだが結局ゴールを割ることができず2-0のまま終了した。

第8回 兵庫県選手権大会結果

|           |   |   |
|-----------|---|---|
| 兵庫教員蹴球団   | 6 | 2 |
| 三木FC      | 1 | 1 |
| 双和クラブ     | 4 | 1 |
| 新日鉄広畑     | 4 | 2 |
| 神戸FC 1970 | 2 | 3 |
| 三菱重工神戸    | 0 | 0 |
| 関西学院大学    | 1 | 4 |

県下レベル・アップへ一言

この大会は兵庫教員の三連覇という結果に終わったが、決勝戦の内容は兵庫県ナンバー・ワンを決める試合内容ではなかった。また、関西リーグ勢と県リーグ勢の力の差も予想以上に大きく、兵庫の層の薄さを感じられた。県下のレベル・アップのため、私はあえてそれぞれのチームに次のことを提言したい。

双和クラブは技術、戦術においてすばらしい選手がいるが、運動の絶対量が不足していた。神戸FC、三木FC、新日鉄広畑は技術において一様のレベルに達しており、チームにまとまりはあるが、戦術に甘さがある。これらを補うためには練習の量と質を高めてい

くことが大切であろう。関西リーグへの道は狭く、険しいけれども県レベルで満足せず、課題を克服し、挑戦してほしい。

さて、県下学生サッカーの雄、関学は初の関西学生リーグ2部落ちという精神的に最もつらい年を迎えたが、今年は例年になく技術がしっかりした選手がそろい、個性のある選手もいるので1部復帰への道は大いにあると思われる。突破の意図やシュート力を高めることが大切であろう。関学の名譽ある伝統のために、また、兵庫県サッカーのためにしっかりと努力してほしい。

兵庫教員、三菱神戸は兵庫県勢としては本リーグへの最短距離にある。各選手はそれを見直し、精神的な老化を打破し、技術、戦術をさらにレベル・アップして日本リーグへ挑戦してもらいたい。(岡本隆英)

兵庫県高校新人大会

六甲、伊丹北ともにゆずらず

高校体育連盟、県協会共催の56年度兵庫県高等学校新人大会は、2月11日から28日まで県下7支部代表24校が参加して行われた。神戸中央球技場の決勝戦は、六甲と伊丹北が対戦し、六甲がやや優勢に試合を進めたものの、伊丹北のねばり強い守りにゴールを割れず0対0のまま延長戦にもつれこんだ。結局、双方ともに糸口をつかめず無得点のまま両者優勝となった。両チームともに今回が初優勝である。

なお、本大会は3月26日から29日にかけて和歌山県で行われる近畿高校選手権大会の予選も兼ねており、両チームのほかに3位の御影、小野、5位の御影工が出場権をえた。

六甲は組み合わせにも恵まれ、準々決勝でも明石北に圧勝し、準決勝では小野を3-2で逆転して決勝に進出した。一方の伊丹北は準々決勝で御影工をPK戦で降し、県立御影を1-0で破って決勝進出だった。六甲、伊丹北は神戸、阪神支部のともに1位代表校で、順当な結果ともいえる。

大会を通じてみると、県選抜のエース西中を擁し、個人技の高い選手をそろえた三原が緒戦で伊丹西に2-2の末PK戦で敗れ、そ

の伊丹西も2回戦で北須磨に完敗する波乱などもあった。神戸支部の7代表校は、長田が1回戦で伏兵甲陽にPK戦で、東灘が2回戦で明石北に敗れた外はベスト8に進出し、神戸のレベルの高さを見た。その外には東播支部代表の小野、明石北と阪神支部の伊丹北が入り、これまでとがらりと変わった構成になった。また、進出めざましい神戸勢のうちでも神戸、北須磨が市予選の時よりも一段と力をつけたのが目をひいた。御影、御影工も伊丹北に敗れたとはいえ内容的には決して劣らない力を持っていた。

これらのチームも6月の高校総体までに力をつけると考えられ、今大会のベスト8を中心に三原や西宮東、伊丹西、県西宮などがどこまで追い上げるか、実力校のレベル・アップで今年の高校サッカーの激しい試合展開を予感させる大会であった。(一北四郎)

56年度兵庫県高校新人大会結果(準決以降)

六甲 3 0 御影工  
小野 0 0-0 1 伊丹北

同、5位決定戦

明石北 0 1 北須磨  
神戸 3 1-6 2 御影工

近畿高校選手権 7月開催へ  
春は強化に専念

56年度近畿高校選手権大会は3月に和歌山県で開催され、兵庫県からは六甲、伊丹北、御影、小野、御影工の5校が出場する。

57年度からはこの大会を従来の3月から7月に繰り上げて実施することが決定した。

そのねらいは、ここ数年近畿から全国大会のベスト4に1校も進出できないといったレベル・ダウンを何とかして打開することにある。よりハイ・レベルのチームで近畿大会を実施するにはチーム編成後間もない3月に比べて全国高校総体の各県予選を終えた7月の時期がより適切で、全国総体出場チームにとっても格好の強化の場になるとの考えが大会関係者に受け入れられたことによる。

今までは近畿大会出場のため、上位校は3月、4月のチーム強化に最も大切な時期にじっくりとチーム作りに取り組みえないような状態であったが、今回の変更により、たとえば静岡、徳島、広島などで行われているような強化大会を実施することも可能になった。実際、近畿高校技術担当者の間でも、そのような強化大会を関西地区で実施しようという考えがあり、このような努力が今後大いに期待されるところである。(一北四郎)

市中学新人戦  
名門、本山中が優勝

神戸市中学校新人大会は、本年度より県大会の予選も兼ね、1月24日から2月11日まで市内中学グラウンドにて行われ、久々に名門本山中が優勝した。

決勝は縦パスで攻める太田中と小さなパスをつなぐ本山中との対戦となった。前半は互角に攻めあっていたが、後半になってからは本山中が完全に攻めのペースをつかみ3-1でタイム・アップ、県大会出場を決めた。

本大会は例年になく天候に恵まれ、好コンディションで行われた。少年サッカーが普及して中学生でも技術的にすぐれた選手も見られ、今後が楽しみである。しかし、中には体の動きの悪い選手もあり、次の大会を目標として一人一人が練習にまじめにとりくみ、質的向上に努力してほしい。(安福幸男)

56年度 神戸市中学校新人大会結果

|     |    |   |
|-----|----|---|
| 本庄  | 11 | 0 |
| 竜ヶ台 | 2  | 1 |
| 垂水東 | 0  | 3 |
| 友が丘 | 3  | 1 |
| 御影  | 2  | 1 |
| 滝川  | 0  | 0 |
| 有馬  | 2  | 0 |
| 灘   | 0  | 0 |
| 王塚台 | 3  | 2 |
| 山田  | 4  | 3 |
| 鷹匠  | 2  | 1 |
| 神大附 | 1  | 1 |
| 六甲  | 2  | 1 |
| 上野  | 2  | 2 |
| 本山中 | 3  | 2 |
| 歌敷山 | 2  | 0 |
| 鈴蘭台 | 0  | 2 |
| 垂水  | 5  | 0 |
| 湊川  | 0  | 0 |
| 津   | 6  | 0 |
| 福   | 0  | 3 |
| 西代  | 0  | 2 |
| 星台  | 1  | 0 |
| 須佐野 | 0  | 0 |
| 高倉  | 3  | 0 |
| 田   | 1  | 1 |
| 魚崎  | 0  | 1 |
| 山   | 3  | 3 |
| 陵   | 0  | 4 |
| 島   | 0  | 5 |
| 港   | 0  | 5 |
| 塩屋  | 5  | 0 |

優勝 本山中

2位 太田中  
3位 友が丘中  
歌敷山中

サッカー

教え方 学び方 (3)

岩谷俊夫

協力 毎日新聞社



12、3年前ピルマのラングーンを訪れた際「ボールと足芸」という出しものを見た。ボールは藤(とう)で編んだはずみのいいもの。チンドンと呼ぶ。それを一人で頭、肩、ヒザ、足のあらゆる場所を使って何百回となく突く。ときどき途中でピタリと頭や肩の上に静止させる。拍手がドットとわく。また続ける。サッカー選手くずれの曲芸かと思つて聞いてみるとその道の専門家だという。TVなどで落語や漫才とかみ合わせ、ときどき出てくる血まわしなど人芸の類だ。ただその芸がサッカーの個人技そのものの総合であるところに、サッカー一色の土地柄を感じさせる。それがりっぱな見世物になるのも、われわれにとっては驚きであった。この芸の中で当時異様に映ったのは、いざりのようにヒザを曲げて歩きながら、そのヒザでポンポンと笛に合わせて突く技だった。実はそのときまで、ヒザでそんなにうまく突けるとは知らなかったのである。

こういう神経は子供のときにすでに大人とかわらないくらい発達している。子供が器用に子供なりにこなしたり、子供のときに身につけた技術が大きくなって、上へあがる角度が悪い。真ん中へんは肉も厚く、少々力まかせにけり上げて飛ぶ。反射神経

ダンブに気をつけよう

横丁から急に自動車が飛び出す。パッと身をひるがえす。つじから急に人が出てくる。さっとよける。あの子は運動神経が発達しているなという。もし神経の鈍い人が自動車の免許証をとったらそれこそたいへんだ。急場目と目と手と足が合わず交通事故続発である。

実際にサッカーのボールを使ってまねをしてみると、それは案外たやすかった。ヒザは血付近は骨ばつていて飛びすぎるし、上へあがる角度が悪い。真ん中へんは肉も厚く、少々力まかせにけり上げて飛ぶ。反射神経

セルジオ越後氏の鋭いフェイントについていける子供たち。そういう神経は大人に負けないだけ発達している。



反射神経



ヒザ突き

「左右、左、右」ちよつとくすぐったいが、一つのリズムをたたきこむと、意外と簡単なものだ。ヒザを地面と平行にあげるのがコツ。

繰り返して、もう一度右足までもつてくる。つまり三回だ。三回突いたらあとは子供が勝手にやっている。続ける楽しさ。体のバランスがどうのこうのということも忘れてやっている。

右足を上げ、ひと突きして足を踏む前に左ヒザが上がる準備をしている。いつも一本足だ。「イチニ、イチニ」とそばへよって調子をつけて上げさせ、一つのリズムを体にたたきこむ。「どうだ、やれそうだろう」といってボールを与える。たいてい右がきき足だから最初は右左と二回突いて手で受ける。こうして何回か

でいけないのは、なんとしても不幸な話だ。

最近ふえてきた体育塾の一つ「少年スクール」が何によらず、その特定の競技の特殊なプレーを強調せず、まずスポーツできる体づくり、調整力をととのえようとしているのは、そのあらわれであろう。

たとえば4、50人のグループにいきなり「ピッ」と笛を吹き「3人組み作れ」と叫ぶ。最後までうろうろして余っている敗残者がいる。いつも決まって同じ生徒である場合が多い。

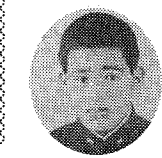
次に2人組をこしらえてジャンケンさせ、負けた方はすぐ逃げた。勝った方はすぐさま相手のどこかをたたき。簡単だと思うがこれがなかなかできない。ジャンケンで勝つてもいつも逃げられてはいる。

やっとなかまえてスクールにはやる理由である。その人自身、スポーツが本当におもしろいと年とってから分かったと嘆く。おそらく長い間スポーツ・コンプレックスがある。もちろん筋肉は弱く力はない。またその力を持続するスタミナがないのは

目の前に光が点滅するランプがあり、パッと電気がついたとたん、無線電信のキーを指先でたたき、それがあとで図表になって出る器械もある。精神を集中するあまり、肩に力が入り、体全体を動かしている子もある。要領もあるが、子供の反射神経を調べるだけでなく、こういう繰り返しで反射はだんだん早くなる。

サッカーはこの反射神経が一番ひんぱんに要求されるスポーツの一つだ。それを鍛えないで、小さいころから筋肉力をつける、持久力をつけることを第一とするのは順序が逆なのではなからうか。それは本当に筋肉がついてくると14、5歳からで十分に間に合う。

この連載は毎日新聞社から発行された「サッカー教え方学び方」(著者岩谷俊夫氏)の内容をお送りしているものです。次号は「少年勇気を持つ(胸のストッパ)」の予定。



八木清悟  
(御影工)

全日本ユース代表候補に

御影工業高校の八木清悟は、今年8月に行われるワールド・ユース・アジア地区予選の全日本ユース代表候補に指名され、3月20日から29日まで東大検見川グラウンドでの強化合宿に参加することになった。

八木は丸山小学校でサッカーを始め、中学生時代は神戸FCジュニアに所属、県中学選抜のエースとして第1回全国中学生選抜大会で活躍し、同大会の優秀選手に選ばれた。これがきっかけで、ナショナル・トレーニングセンターの候補にも何度か指名され、その素質を高く評価されていた。

御影工業高校へ進学後はさらに努力精進し一年生の時から県国体少年選抜のメンバーに加わって活躍した。同校においても、55年度県下高校サッカー三冠王達成、近畿大会優勝に貢献した。今年の全国高校選手権では第1戦の膝のけががひびいて充分な活躍ができなかったが、それでも全日本森監督らの眼にと

まり、今回の候補指名となった。

八木の特徴は正確なキックとボール・キープのうまさ、右足のインフロント、アウトフロントを使つてのカーブ・キックの正確さは他の追随を許さない。これは、彼のフリー・キックからしばしば得点が生まれることからよく理解できる。昨年度の全国高校選手権対室蘭大谷戦での凄選手のヘディング・シュートによる4得点はすべて彼のコーナー・キックとフリー・キックから生まれたものであり、この大会の県予選決勝の3点もすべて彼のコーナー・キックから生まれている。また、ボール・キープのうまさは彼の持ち味である強い足腰のバネに支えられたボディ・バランスの良さからきており、このため少々のぬるみやイレギュラー・パウンドでバランスを崩すようなことはない。

今後の課題は集中力の持続と、周囲の状況にもっと適応したプレーが即座にできるようにすることである。

昨年夏のライオン・シティー・カップには神戸から県立御影の和田昌裕と神戸FCユースの溝畑哲朗を全日本ジュニア・ユース代表として送り出すことができたが、今回も八木が検見川合宿で健闘し、全日本ユース代表に選ばれるよう声援を送りたい。